南口開発は湧水の危機

今、三島市は駅南口開発について、西側については私有地を含めた全体計画をあきらめたようだ。線路側の市有地をホテル建設を条件としての売却を決めたと報道された。これはオリンピック景気を見込んでのことだろう。

現在は駐車場、駐輪場として使われているがそれらの対策は聞いていない。後戻りできない状態にして強引に進めようとする手法はもう願い下げである。

六月七日市議会議員四会派が市長あてに開発についての要望書を出した。内容は一見市民の意見を十分に聞いて進める事を求める内容のように見えるが、市民に説明することを求めている内容でもなく、市民から広く意見をもとめる方策を提案している内容でもない。住民からの要望を代弁しているかのように装っているが、内容は短期間にまとめ上げた市当局となれ合った内容に思えてならない。

西街区の駐輪場

住民の代表を標榜している議員の皆さんは自分の役割をもう一度考え直してほしい。一人でもよいから駅前開発について自分の考えを市民の前に開示し、具体的な内容を提案してくれることを市民は望んでいる。

今、この問題で大切なことは市民の英知を集めた計画を作り直すことである。そしてできた内容を市民が十分に納得できるように説明し、多数の納得を得ることである。

今の市の試案にある「高層のマンション」はなぜ建てなければならないのか、また「駅前全体を一体としての開発計画内容」になぜなっていないのかなどについては市民に対して全く説明がされていない。無責任極まりない行為である。

特に心配なのは三島の湧水への影響である。三島駅の付近は富士山地下水脈のかなめの位置にある。そのことは駅裏に立地した東洋レーヨンが大量な地下水をくみ上げたことで、楽寿園の小浜池やセリの瀬などの湧水が枯れ、農業用水にも支障をきたしてきたことでも明らかである。

高層住宅建築の基礎工事に伴う各種の行為が、かろうじて残っている三島市街地の湧水にどんな影響を及ぼすかについては誰もわからない。

それがゆえに、市の開発計画の主眼として、人口減への対応とか、にぎわいを作ること等に話題を集中させて、湧水問題はあえて避けている。

その中で今回の議員の要望書が湧水問題に触れたことは一定の評価をしてもよいだろう。一度壊した自然は、元へ戻すことは極めて難しい。時間はたっぷりとある。市民の英知を集めて後世に悔いのない三島駅南口駅前全体構想を作っていくことが大切である。

市長や議員の功績のために開発があるのではない。開発行為は市民全体が納得できるものでなければならない。

ましてや今回の駅前開発の土地の大部分は市有地（市民全体のもの）であるからなおさらである。（Ｏ）

特集

わが町の保育料のこと

その一

疋田ふさ子

〈はじめに〉

この国って、発言しても変わらないことのほうが多いだろうし、発言して目立つことで周囲から白い目で見られるリスクの方が大きいと思う。

でも、一歩踏み出さなければ何も変わりません。勇気を出して言ってみれば、変わるかもしれない。そんな経験をしたというお話です。

〈一人息子は公立幼稚園〉

今、国では幼・保一体化政策が進められ、幼稚園も変革の時期に来ています。

私は、夫と五歳になる一人息子の三人家族で、息子は公立幼稚園に通っています。

専業主婦の私には息子を保育園に入園させる選択肢は無く（わが町では共働き世帯でも保育園入園は困難）、幼稚園に入れるのが当然だと考えていました。

〈突然の値上げ通告〉

昨年七月、息子の通う幼稚園で保護者に向けて保育料の説明会がありました。国が定める子ども子育て支援新制度に基づき、今まで一律だった保育料が、世帯収入に応じた応能負担に変更するとのこと。つまり園児として同じサービスを受けているのに第二子は半額、第三子は無料、そして第一子は最大三倍の値上げになるという話でした。これは、数日後に差替が配布され、第二子以降の園児全員が無償となっていました。でも、第一子は変わらず最大三倍のまま。それも私の怒りのポイントでした。第一子である息子は今年度も通うので、値上げの対象です。いやいや、聞いてませんけど？そんなつもりで公立幼稚園に入れてませんけど？

〈日本一の子育ての町〉

確かにこの町の保育料はとても安く、他県に住む知人に話すと驚かれます。この町は自然豊かで、人はみな優しい。私は町に対して大きな不満もない。

でも、この町が、「子育ての町」と全国に周知されていることには違和感があります。そんな実感が無いからです。本当に子どものことを考えているのだろうか…。今回の保育料の話で、特にそう思いました。

〈行政ハラスメント〉

「出生率を上げる目的で第二子以降を無償とした」と、役場職員の説明でした。

でも、欲しくても産めない、いわゆる第二子不妊に悩む人々にとってはどうでしょう。子供が二人以上居ないと得にならない、行政サービスを受ける資格が無い、と言われているようなものです。

色々な感情が渦巻きました。私と同じ、一人息子のママと話しました。どうしようか、と。これが多数派であれば話は違ったかもしれません。でも、残念ながら、私達は少数派でした。

〈どうしたらいいの？〉

言いたいことは山ほどあって、このやり方は違うんじゃないかと言いたいけど、他人の目がとても気になるのも事実でした。私達が声をあげたら、後ろ指刺され、クレーマー呼ばわりされるかもしれないし、役場に反論して保育料改定が白紙に戻ったら、無償になる等の恩恵を受けるはずの人たちからも白い眼で見られてしまう。私達は幼稚園行事にも奔走していて結構忙しく、時間をとって活動する必要があるか？等も考えました。

まずは役場の担当部署に書面で質問と意見を提出してみました。

保育料を改定する目的や、私達は元に戻してほしいこと、等。役場からの回答は、想像通りでした。国が決めたことだから保育料改定は仕方ない、元には戻せない、ということでした。

さて、どうするべきか。

年末の慌ただしさから解放された、２０１５年12月31日の深夜。信頼できる知人達に相談して、やれることをやろうと決めました。

この時に、少し動き出そうという勇気が、踏ん切りがついた気がします。

次号〈続く〉

長泉町の火葬場問題

いま長泉町では火葬場が熱い。といっても設備の温度ではなく、政治の話だ。

遠藤町長は昨年12月に町の広報誌上で裾野広域斎場の方針を発表した。施設の広域運営は一般に行政コスト削減に有効な手段とされている。何が問題なのか。

まず新斎場は裾野市と御殿場市との市境になる。広域化により、住民は大幅な利便性の低下を受け入れなければならない。

それ以上の問題がある。

町は広域案の方がコスト増になるという、広域と町内との比較データを自ら作成しながら町民には公開しない。利便性が低下しコストアップする広域施設など聞いたことがない。

町が方針発表する際、議会への報告は「明後日発行の『広報ながいずみ』に火葬場広域の方針を載せますから、ご承知おきを。」というものだった。

これは全くの議会軽視であり、ルール違反である。

この火葬場問題を契機に住民運動の機運が高まりつつある。その対策として先日、町民向けの説明会が開かれた。

その場では現火葬場での修繕費が多く掛かった年度と、広域斎場で修繕費が掛からない新設年度の火葬コストを比較するという、住民をだますような説明がなされた。質疑応答では池田副町長が「町民に意見を聞かずに行政が決定して問題ない」と言い放った。

現火葬場に隣接する葬祭場の町内契約者は四五二八世帯を数え、移転は一万人以上の町民に影響が出る。様々なデータが示すとおり、町単体のほうが広域斎場よりも高い住民サービスを提供できることは間違いない。

住民あっての行政である。その基本を忘れてはならない。

行政と議会は慢心を取り払い、住民のために真摯に火葬場問題に取り組むべきである。

長泉町議会議員　小永井康一

本当の話

春はとうに過ぎ、季節は刻々と悩み事のように解決することと無く過ぎ去って行く。旬は一瞬。

各地で開催されるマーケットで「僕は西浦で農薬散布せずにみかんを作っています。不耕起で剪定と摘果中心に…」。この三～四年何度テンション高くしゃべりまくったか。ただ用意してきた柑橘が売れればいいからではなく、日々葛藤している事が消費者に伝わってほしい一心からである。

毎日忙しく勤勉に暮らしている大多数の消費者のための小売店は、そんなことはどうでも良く、安くて便利を目指している。

毎週日曜日午前中、伊豆長岡の湯気が立ち上るまんじゅう屋の並び。日曜休みの建設会社の駐車場を利用して、生産者が収穫したものを自分で路上販売している。リアルファーマーズマーケットだ。僕もこれを始めた方々と数年前に出会い、一緒にマーケットを作り上げている。

ゼロからスタートして二年が過ぎ、今は沢山の人が訪れる。盛り上がっている。

近年、大量消費社会末期の世の中、キャッチコピーに広告と、似たり寄ったりの物、物、物が溢れ出回っている。口に入れる農作物、食品も同様に。こわいこわい。そんな大海原の中、日々の暮らしの楽しみは本物を探すことかな。

正直にコツコツやっている仲間がたくさんいる。何よりも頼もしい本当の話。僕は確信している。

Ｏ・Ｐ・Ｆ

ひろばおすすめｓｈｏｐ

しゃり工房

昔チンチン電車が走っていた旧道の伏見にある大正三年創業のお米屋さん、岩崎米穀が営むおむすび屋「しゃり工房」。

作り置きせず、注文を受けてから温かいごはんをにぎってくれる。

さすがお米屋さん、ごはんが抜群に美味しい。種類も豊富で梅、昆布、しゃけ、めんたい等定番に加え、じゃこにぎりは青菜、わかめ、カリカリ梅のきざんだのが混ぜてありおすすめ。一個百四十円。他にも変わり種あり、おいなりは一個五十円。

岩崎米穀
しゃり工房 おむすび
おむすび

おかずは鶏のから揚げ、コロッケ、メンチ、野菜の煮物、漬物など色いろあり安くて美味。

先日、前もって人数がはっきりせず、弁当の予約が難しい集まりに、このおにぎりと漬物を大皿で山盛り用意して、参加者の好評を得た。朝早くから営業しているので助かる。

駐車場は店の前に三台分。帰りは、先の信号（東方）が赤になってから出ると、バックでも安心して出られる。

（ＭＬ）

しゃり工房
駿東郡清水町新宿５５
電話　０５５－９８３－２８００
ＦＡＸ　０５５－９８３－２８３１
営業時間
おむすび　朝６時～14時
米　朝６時～17時
定休日　第２水曜日のみ

本棚便り（９）

間宮　緑

『我と汝・対話』

マルティン・ブーバー著
植田重雄訳、岩波文庫

あらゆる認識の中で「私」とは最も根源的なものだろう。幼児は「長い」という概念より早く「遠い」という概念を身につけるそうだ。まず「私」を中心に計ることを覚え、それから客観的な距離を理解するという。

「我思う故に我在り」という言葉が示すように、近代以降「私」は物を考える上での基点になってきた。人間とは何か、世界とは何かを考えるとき、その注意は「私」の内面へと向かい、あるいは「私」に見える「世界」へと向かう。

我と汝・対話
マルティン・ブーバー著
植田重雄訳
孤高の宗教哲学者ブーバー（1878-1965）によれば、世界は人間のとる態度によって〈われ－なんじ〉〈われ－それ〉の二つとなる。現代文明の危機は後者の途方もない支配の結果であって、〈われ〉と〈なんじ〉の全人格的な呼びかけと出会いを通じて人間の全き回復が可能となる。対話的思惟の重要性を通じて人間の在り方を根元的に問うた主著２篇。
青 655-1
岩波文庫

ブーバーはそんな「私」を疑う。「私」とは「あなた」があって初めて成り立つ概念だというのだ。確かに、この世に存在するのが自分一人だけであれば「私」という言葉はいらない。本書曰く「私」は「私とあなた」「私とそれ」の片割れである。「あなた」は人に限らない。木でも動物でも神様でもよい、謎めいた唯一無二の相手として私の前にいるものをいう。対して「それ」とは認識の対象をいう。たとえ面と向かい合っていても、相手を把握し分類しようとするなら、その相手は私にとって「それ」である。

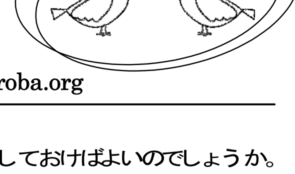
本書は、「私とそれ」が現代社会を支配し「私」を世界から分離させ迷妄の中をさまよわせていると警告する。本当の「私」は孤独ではありえない。その言葉は「あなた」と結びついているからだ。そして「あなた」とは、決して他のものと一纏めにはできないものなのだ。

６月のひろば企画

「　災害ボランティアから見た個人の日ごろの備え」

話題提供者　災害ボランティアコーディネーター　土屋賢一氏

７月３日（日）13時30分より

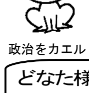


場　所　市民ひろば
資料代　500円（予約なし700円）
予　約　携帯電話　070-1611-0884
e-mail　youyaku@siminn-hiroba.org

地殻の活動が活発化しているようです。
巨大災害に備えて日ごろからどんな備えをしておけばよいのでしょうか。
災害地にボランティアとして場数を踏んでいらっしゃる土屋氏から、
体験を通した災害への備えと心構えを伺い、意見交換をしましょう！

ストップ戦争法
三島アクション

２０１６年６月１８日（土）



会　場　三島市役所前ひろば
ミニ集会　10:00～10:30
パレード　10:30～11:30

政治をカエル！

どなた様もご参加ください。
一緒に歩きましょう！

コース：市役所→白滝公園
→本町→大社町交差点

土曜日恒例の大社町西交差点のスタンディングは
パレード終了後、11:30 ～ 12:00 に行います。

呼びかけ人　加土井六郎　原田純子　浅羽愛
お問合せ　055(975)2855　カドイ

労働相談受け付けます！

三島ふれあいユニオン

首切り解雇、残業代未払い
職場でのパワハラ・セクハラ

ひとりで悩まないで相談してください

三島ふれあいユニオンは
全力であなたをサポートします

電　話：090-4216-8417
Ｅメール：hrwsiys@ny.thn.ne.jp

土曜日の午後2時から4時は

みんな集まれ！

おしゃべりひろば

気になる話題を持ち寄って、
みんなでおしゃべりしませんか？

ひろばには、いろんな本があります。
防災の本もたくさんありますので、読みに来てね！

― 日曜日は原則お休みですが要望があれば開放します ―